

楽しく学ぶ日本事情

四. 文化編

1. 日本文化の特徴
2. おもてなしの文化
3. 日本の贈り物文化
4. 文字の文化（仮名と漢字）
5. 美しい日本語、難しい日本語



1. 日本文化の特徴

<https://we-xpats.com/ja/guide/as/jp/detail/6514/>

日本文化が持つ独特の自然観は、自然に身をゆだねる生活のなかで培われました。また、海外の文化を取り込み独自の改良がされてきたのも、日本文化の特徴です。ここでは、日本文化の特徴をまとめて紹介します。



中国や韓国の影響を受けつつ独自に発展してきた

日本文化は、近隣にある中国大陸や朝鮮半島からの影響を色濃く受けています。しかし、伝わったままの状態を保っている文化はほぼなく、日本で日本人に適合したかたちに変わっていきました。たとえば、漢字は中国から伝わった文字ですが、現在日本で使われている漢字と中国で使われている漢字は異なります。また、漢字から発展したカタカナやひらがなは日本独自の文字で、中国にはありません。

このように、ほかの国からの影響を受けつつも多様なかたちに発展していったのが、日本文化の特徴といえます。

日本特有の自然観に基づいている

日本には、欧米と異なる「人間も自然の一部」だとする独自の自然観があります。中心にあるのは、「人間が自然のすべてを理解したり制御したりするのは不可能」とする考え方です。自然に身をゆだね、どのような状態でも受け入れるという姿勢は、さまざまな日本文化に反映されています。

また、四季のある日本で暮らす日本人は、季節の移り変わりにも敏感です。そのため、繊細な季節の変化を目一杯楽しむことに重点を置いた日本文化も多くあります。日本文化は日本独特の自然観によって培われたといえるでしょう。

日本文化と西洋文化には異なる点が沢山ある



地理的にも遠く離れている日本と西洋では、文化的な違いが多数存在します。ここでは、日本文化と西洋文化の異なる点をまとめて紹介するので、日本人と交流する際の参考にしてください。

人との関わり方の違い

日本人は、ほかの民族と関わってこなかった歴史が長いことから警戒心が強く、コミュニケーションの取り方も控えめな人が多い傾向にあります。積極的に他者と関わっていく人が多いヨーロッパ圏の人とは、大きく異なる点です。

食事の取り方の違い

西洋は肉食が中心で、小麦で作られたパンやパスタを食べる食文化があります。一方、日本は米や魚、野菜を中心に食してきました。現在のように日本人がパンや牛肉を食べるようになったのは、西洋文化が入ってきた明治時代以降です。なお、「日本人のご飯は西洋人にとってのパン」といわれますが、これは間違った解釈といえます。日本人は、ご飯をパンのように肉や魚の付け合わせとして食べてはいません。お米を美味しく味わうために、おかずを食べているといった解釈が相応しいでしょう。

信仰との向き合い方の違い

信仰との向き合い方も、日本と西洋では大きく異なります。西洋では、特定の宗教を信仰し、お祈りをしたり儀式をしたりすることは決して珍しくないでしょう。一方、日本人はいわゆる無宗教といわれる人が非常に多い国です。そのため、いろいろな宗教の神にお祈りをし、その時々盛りに上がる宗教イベントに参加します。

人生で優先すべきことの違い

日本人の国民性として、周囲と同調・調和することを優先させる人が多い傾向にあります。もちろん、全員には当てはまらないものの、個人を大切にする西洋的な考えをする人はそう多くありません。

建築様式の違い

伝統的な建築物の多くは、日本だと木材、西洋だと石材で作られています。地震の多い日本では、石造りの建築様式は発展しませんでした。また、湿度調節もできる木材のほうが、高温多湿な日本の気候に合っていたのです。

芸術に対する価値観の違い

日本人には、一見地味でさみしげな表現も美しいと考える文化があります。特に芸術分野ではそのような傾向が強いでしょう。古くから伝わる有名な芸術作品からは、華やかよりも奥ゆかしさや侘しさを強く感じます。

・人にまつわる日本の文化

宗教

日本はあまり宗教を意識しない国ですが、神道や仏教は日本人に深く根付いています。古来から神道が信仰されていたところに、現在の韓国である百濟（くだら）から仏教がもたらされました。

なお、日本人の多くは、神道や仏教を信仰していると意識せずに生活を送っています。そのため、正月には神道の考えに基づいた神社にお詣りし、盆には先祖供養の為にお経をあげるのです。

日本では、キリスト教のイベントであるクリスマスも祝います。ただし、日本のクリスマスは西洋と違い、12月24日に友人や恋人と楽しむイベントです。

おもてなし

おもてなしとは、客人への心を込めた待遇やサービスを指します。日本のおもてなしを強く感じるのは、旅館や百貨店などの場所です。旅館に泊まったときに適温で出される料理や掃除の行き届いた部屋には、充実した時間を過ごすための気遣いを感じるでしょう。百貨店では雨が降ったらショッピングバックにビニールカバーをかけ、商品を守ります。相手のことを思いやり、細かいところまで配慮が行き届いたおもてなしは日本を代表する文化といえるでしょう。

かわいい (kawaii)

日本独自の「かわいい (kawaii) 」という価値観も、立派な文化として世界中に受け入れられています。かわいいは「cute」や「pretty」とはまた異なる感情を表し、直訳できる言葉は他言語にありません。愛らしく、心を揺さぶられる対象に出会ったときに、日本人は「かわいい」と感じます。

わびさび

「わびさび」はさまざまな文化に影響を与えている、日本古来の価値観です。「わび」は「完全でない状態を楽しもうとする気持ち」「さび」は「枯れた状態や古さの味わい」を表します。特に、日本庭園や茶道、盆栽などの文化は、わびさびの概念に大きく影響を受けているといえるでしょう。

コミュニケーション

日本文化では、周りの人々との協調性が重要と考えられてきました。そのため、お互い思った内容をはっきりと言葉にする習慣はあまりありません。代わりに、相手の表情や声のトーンなどの様子から考えを察します。



・ 日本独特の文化！

会社の飲み会や行事はできるだけ参加する

日本には、業務後の飲み会には極力参加するのが望ましいという価値観があります。飲み会で仕事以外の話をして親睦を深め、コミュニケーションを取りやすくしようという考え方があるためです。これを「飲みにケーション」といいます。ただし、昨今はこの考え方が見直されつつあり、プライベートの時間を大切にしている会社も増えているようです。

咳や鼻水が出るときはマスクをする

日本には、2020年に新型コロナウイルスの流行が拡大する前から、咳や鼻水が出るときはマスクをするマナーがありました。「相手に風邪や病気を移してはいけない」という気持ちの表れといえます。風邪の流行る冬になると町中にマスク姿の人がいるため、海外から来た方は驚くでしょう。

電車では静かにする

日本では電車の中で静かにするのがマナーです。電話で話すことは明確なルールとして禁止されており、友人や家族と電車に乗っているときも小声で話さなければなりません。たくさんの人が乗車していても電車が静かなのは、日本ならではの文化といえるでしょう。



食事をするときはお椀を持ち上げる

日本では、食事をするときにお椀を持ち上げるのがマナーです。西洋はもちろん、日本と似た食文化を持つ韓国でさえもお椀は置いたままで食事をします。なぜお椀を持つのがマナーになったかは諸説ありますが、主食のお米には神様が宿ると考え、敬う気持ちを表す行為という説が有力です。

麺をすするときは音を立てても良い

海外だと麺類をすすって食べるのは行儀が悪い行為とされます。しかし、日本ではうどんやそば、ラーメンなどをすすって食べるのは問題ありません。日本で古くから食されているそばは、音を立ててすすったほうが風味を感じられて美味しく食べられるためです。

旅行や遊びに行ったあとはお土産を配る

日本には旅行やレジャーに行ったり帰省したりしたら、上司や同僚にお土産を購入するマナーがあります。海外のお土産といえば家族や親しい人が対象なので、職場の人に買うのは日本特有の文化です。

特に、有給や休みを取って出掛けた際は「お休みをいただいてすみません」「お休みの間ありがとうございます」といった気持ちを込めて、お菓子やちょっとした小物を配ります。なお、職場ごとに感覚が異なり、お土産を買わなければマナー違反になるとは限りません。



年上を敬う

年上を敬う文化がある国はいくつもありますが、日本の場合は特に強い意識があるといえるでしょう。年上を敬う思想は儒教に基づいており、ほかに中国や韓国、台湾でもみられる文化です。

お礼や謝罪するときに頭を下げる

日本では、お礼や謝罪の言葉を言うときに頭を下げます。これは「お辞儀」という文化です。元々は、頭を下げることで敵意を持っていないことを表す動作でした。あいさつをする際にハグをしようとしたら、頭を下げられて驚いた方もいるでしょう。日本にはあいさつのときにキスやハグのように体を接触させる文化はないため、代わりに頭を下げるのです。なお、挨拶は頭を深く下げるほど、より丁寧とされています。

時間をしっかり守る

日本には、時間を守るべきという考えがあります。日本人にとって、待ち合わせや決められた時間から1分でも遅れたらそれは遅刻です。また、余裕を持って時間に到着することがマナーとされています。特にビジネスシーンでは、時間を守らないと非常識と捉えられてしまうので注意しましょう。

本音と建前を使い分ける

日本では「本音と建前」という概念があります。本音をはっきり言わず、相手が気分を害さないようにするのが目的です。たとえば、「いいえ」と言うべきときにも「ありがとう」「大丈夫」などの曖昧な表現を使います。

まとめ：日本の文化は独自の自然観に基づき、海外からの影響を受けながら発展してきました。食べ物や建築、服装などさまざまな物事に、日本伝統の文化が根付いています。来日した際は、ぜひ日本文化を感じられる場所を訪れ、実際に体験してみてください。より日本という国の魅力を感じられるでしょう。

2. おもてなしの文化

<https://we-xpats.com/ja/guide/as/jp/detail/10312/>

日本の「おもてなし」とは何か？



「おもてなし」とは、相手が望んだり喜んだりする物事を想像して自ら行う行動や心遣いを指します。相手に想像以上の喜びや快適さを提供し、感動を与えられるように試行錯誤する自分の「心」こそが、おもてなしの原点なのです。そのため、おもてなしの対価を求めたり、費やした労力を相手にアピールしたりはしません。

なお、「おもてなし」という言葉は、「もてなし」に「お」を付けた丁寧語です。語源については以下で詳しく解説します。

「おもてなし」の語源

「おもてなし」には以下2つの語源があります。

語源①：モノを持って成し遂げる：「モノ」には、目に見える物体だけでなく、気持ちや心などの目には見えない事象も含まれます。もてなしたい対象に対する想いをさまざまな形で表し、相手に喜んでもらうことが「おもてなし」の語源です。

語源②：「おもてなし＝表裏なし」だといわれています。「表裏がない」は、人の表情と考えている内容に食い違いがないという状態を意味する言葉です。つまり、「おもてなし」とは心から相手に敬意を払い、思いやりを持って接している状態を意味します。また、「表なし＝表がなければ裏もない」という言葉が語源という説もあります。

おもてなしは茶道の文化から始まった

おもてなしの文化は平安時代から室町時代にかけて、茶道の文化が日本人に広まると同時に始まったとされています。日本の茶道は、お茶の提供だけが目的ではありません。相手が喜ぶよう、茶道特有の茶室や道具、作法によって作られた最高の空間と時間も含めておもてなしなのです。茶道における心の持ち方や姿勢、振る舞いをきっかけに始まったおもてなしは、その後さまざまな場面で行われるようになりました。

おもてなしと間違えやすい似ている意味の言葉もある



マナーとは

マナーは礼儀や作法を意味する言葉で、ラテン語で手の意味がある「manus」から生まれました。「manus」は、相手に不快感を与えないような、食事の際の手の使い方や作法を指す言葉です。

人間関係において秩序を保つために生まれたマナーは、TPOに応じて取るべき行動や態度が決まっています。一方で、おもてなしには決まった形式はありません。

また、マナーは常に守る必要がありますが、おもてなしをするかどうかはもてなす側の気持ち次第です。

サービスとは

サービスの特徴は、受けるときに対価が発生するという点です。サービスを受けたい場合は相手に金銭を渡し、提供する側は対価を受け取る代わりに行動します。

サービスには「奉仕」または「従事」の意味があり、提供する側と受ける側の間に明確な主従関係があるのも特徴です。また、サービスは求めているすべての人が利用できるという点でも、おもてなしとは異なります。

ホスピタリティとは

ホスピタリティには主従関係はなく、「提供する側と提供される側が対等」という特徴があります。ラテン語が語源で、「客人の保護」を意味する

「hospics」、または「客人やもてなす側の主人」という意味の「hospes」から生まれました。一般的に、日本語では「心遣い」や「思いやり」と訳されます。対等な関係を保ちつつ、いたわりの気持ちを持って自発的に行動するのがホスピタリティです。また、おもてなしと同様にホスピタリティに対価は発生しません。

「ホスピタリティ＝おもてなし」と考える方も多くいますが、共通する点と異なる点があります。どちらも相手への思いやりを持って、対価を求めず行動を起こすという点は同じです。ただし、おもてなしは提供する側の心や姿勢といった精神面を重んじているという点で、ホスピタリティとは異なります。

日本のおもてなしを感じられる場所 4 選



おもてなしを感じられる場所として、日本の旅館やホテル、料亭、デパートなどが挙げられるでしょう。ここでは、おもてなしを受けられる場所と内容を紹介します。

場所 1 旅館やホテル

日本の旅館やホテルなどの宿泊施設は、おもてなしを感じられる場所の代表格です。たとえば、食事の際は料理が最高の状態で提供され、美味しく食べるコツを教えてもらえます。また、綺麗に清掃されている部屋からも、おもてなしの気持ちを感じられるでしょう。テーブルや備品の配置も、「お客さまが心地良く過ごせるように」という、従業員の細かい心遣いがされているのです。宿泊施設によっては、従業員が宿泊客をおもてなしするために、何度も部屋を訪れる場合もあります。過度なおもてなしは不要だと考える方は、事前に調べたり過剰と感じたときに従業員へ申し出たりすると、快適に過ごせるでしょう。

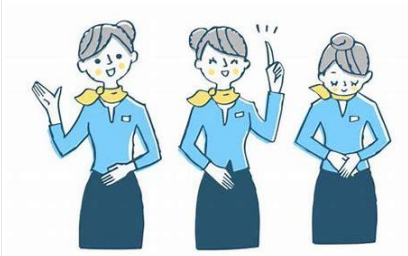
なお、日本はチップの習慣がないので、おもてなしに対して金銭を渡すと従業員を困らせてしまう可能性があります。良いおもてなしへの感謝の気持ちは、口頭もしくは手紙などの金銭以外で相手へ伝えましょう。

場所2 料亭やレストランなどの飲食店

料亭やレストランなどの飲食店も、日本のおもてなしを体感できる場所です。料亭では、季節ごとの旬の食材を活かした美味しい料理が食べられます。美しい食器や和を感じさせる部屋、飾られた四季折々の花などからも、おもてなしの気持ちを感じられるでしょう。

日本では、高級店でないレストランでもおもてなしを受けられるのが一般的です。入店するとすぐに店員が席まで案内してくれ、手を拭くためのおしぼりが渡されます。飲食店によっては、メニューに写真が載っており、英語や中国語など他言語が記載されている場合もあります。そのため、外国人の方でも注文しやすいでしょう。

場所3 デパート



日本のデパートでも、おもてなしを感じられます。代表的なのは従業員による出迎えや見送りです。入店の際は「いらっしゃいませ」という言葉で出迎えられ、商品を購入すれば「ありがとうございました」と言って店外まで見送ってくれます。また、エレベーターに従業員が1人乗っていて、ドアの開閉操作を行ってくれるのも、日本独自のおもてなしでしょう。

場所4 電車

電車の中やホームが綺麗な点も、日本のおもてなしの一つといえるでしょう。電車がホームに停車しているわずかな時間に、隅から隅まで清掃する従業員の技術と心遣いに感心する人が多くいます。また、電車が時刻表通りに運行している点も、日本ならではの文化のようです。

日本には、おもてなしを目的とした観光列車もあります。旅や食事を楽しむと同時に、日本のおもてなしを電車の中で体験したい方におすすめです。

おもてなしをするときのコツ



コツ1 何をすれば喜んでもらえるかを想像する

おもてなしをするときは、相手が何を求めているかを想像しましょう。そして、喜んでもらえそうなおもてなしを、時間を掛けて考えることが大切です。

「自分は●●をしてあげたい」という想いをただ相手にぶつける行為は、おもてなしとはいえません。相手がどのように感じるかを考え、自分ができる行動や配慮をするのがおもてなしなのです。

コツ2 おもてなしで対価を得ようとしない

おもてなしで対価を得ようとしてはいけません。対価を目的としたサービスではなく、相手を思いやる自分の心や精神こそが日本のおもてなしの原点なのです。金銭を得られなくても、相手の笑顔や感謝の言葉によって喜びを得られます。丁寧で心のこもったおもてなしを心掛けましょう。

なお、おもてなしする際は、費やした時間や行った努力を相手に見せてもいけません。なぜなら、相手が恐縮する可能性があるからです。快適に過ごしてもらうために、相手に余計な気遣いをさせないようにしましょう。



コツ3 相手や季節などを総合的に判断してもてなす

たとえば、小さな子ども連れでレストランに行くと、ベビーチェアやキッズメニューが用意される場合があります。また、寒い季節には、冷たい水ではなく温かいお茶が提供される飲食店もあるのです。ほかにも、雨の日に百貨店で買い物をする、荷物に防水カバーをかけてくれるといったおもてなしも受けられます。

このように、相手の年齢やその日の気温、天気などを考慮し、臨機応変に対応するのがおもてなしのコツです。

まとめ

おもてなしは、日本の茶道の文化から始まったといわれています。相手の喜びや望みを想像して行動を起こしたり、思いやりの気持ちから配慮したりするのが、日本のおもてなしです。おもてなしの目的は、対価を得ることではありません。常に相手を想う自分の心を意識したうえで、おもてなしをしてみましょう。

3. 日本の贈り物文化

・お中元とお歳暮

<https://thegate12.com/jp/article/411>

夏になるとデパートやスーパーでよく目にする「お中元」や「お歳暮」。今回はお中元とお歳暮の違いと意味、時期やマナーについて解説します。

お中元の歴史



中国・紫禁城

そもそもお中元の由来は中国の暦。中国では古代から旧暦で上元（1月15日）、中元（7月15日）、下元（10月15日）の3つに分ける歴法がありました。道教（中国の宗教のこと）の教えによると、中元の日には神様にお供え物をすれば自分の罪を赦されると信じられていたのだそう。

そして日本では仏教の影響から盂蘭盆（うらぼん）（七月十五日を中心に行われる祖先の霊を祭る仏事のこと）の行事と結びつき、お中元は「ご先祖様を供養する日」として根づいたそうです。

なぜお中元の贈り物は食べ物が多いの？



牛肉が入ったお中元

民俗学者の柳田国男の説によると、餅や米、酒には特別な力があると考えられていました。そのためハレの日の祝宴におけるお供えとして用いられるように。「お供え物をみんなで分かち合い食べることで、神と人間との共同飲食をする」という考えが元となり、お中元に食べ物を贈る習慣ができました。

お中元の成り立ち



お中元ののしが付いた箱

お供え物を人々と分かち合い共に食べよう、という考えから始まったとされる風習が親や仲人、上司など対して食料を贈る習慣として定着していきました。また江戸時代になると商人たちが決算期である中元や歳暮の時期に、お得意先到手ぬぐいなどの粗品を贈るように。

やがて宗教的な意味合いでの贈答時期と、商人たちのお得意先への贈答習慣時期が重なったことでそれらが混ざり、次第に「お中元」や「お歳暮」という言葉自体が贈答を意味するものへと変わりました。それから一般庶民の贈答行事として広まり、現代の「お中元」という文化に。

お中元とお歳暮の違いとは？



お中元を渡す

お中元とお歳暮ではとても似ていますが若干意味合いは変わります。その違いは大きく分けて由来・時期・金額の3つ。それらを詳しく説明します。

由来



御霊祭の様子

お中元の歴史で前述したようにお中元は中国由来の文化。しかしお歳暮は日本古来の風習が起源とされています。そもそもお歳暮は年の暮れに行われる、先祖を祀るための行事「御霊祭」におけるお供え物として贈られていたもの。

その後分家した人や嫁いだ人が年の締めくくりに親族などへ品物を贈っていました。それがやがて時代の変化とともに日頃お世話になっている人へ1年の感謝を伝えるため贈り物をする、という行事へと定着するように。

贈る時期



お中元とお歳暮では贈る時期も変わってきます。しかし地域によって時期に多少のズレがあるため、贈る際には相手の住んでいる場所に注意しましょう。

お中元

北海道： 7月15日から8月15日まで

東北・関東： 7月初旬から7月15日まで

北陸： 北海道と同じ地区、関東と同じ地区に分かれる

東海・関西・中国・四国： 7月中旬から8月15日まで

九州： 8月1日から8月15日

沖縄： 旧暦の7月15日前後（8月中旬～9月初旬頃）

お歳暮

北海道： 12月13日から12月20日

東北： 12月13日から25日頃

関東： 12月初旬から12月31日

北陸： 12月13日から12月20日

東海・中国・四国： 12月13日から25日頃

関西： 12月13日から12月31日

九州： 12月13日から12月20日

沖縄： 12月13日から12月20日



お中元お歳暮の相場って？

お中元は夏に贈り下半期の健康を祈るもので、お歳暮は年末に贈る1年の感謝を伝えるもの。そのためお歳暮の方が重要視されることが多く、お中元よりも2~3割高めの贈り物が選ばれる傾向にあります。

お中元の金額の相場は相手によって変わってくるもの。親戚や知人は3,000円程度、仲人や上司は5,000円程度が一般的とされていますが、特別お世話になっている人には相場より少し高めの物を贈ることが多いです。

お中元・お歳暮のマナー



お中元とお歳暮は、どちらも健康を祈ったり感謝を伝えるために物を贈る大切な習慣です。そのため基本的なマナーがなっていないと相手に対して失礼に当たることも。そのような失態を防ぐためにまずはお中元とお歳暮についての正しい理解が必要です。贈る際のマナーや喪中の時なども詳しく解説します。

お中元・お歳暮は両方贈らないといけない？



お中元とお歳暮は両方贈ることが一般的とされていますが、必ずしも贈らないといけないわけではありません。予算の都合やタイミングが合わなかった場合などは、1年間の感謝を表すお歳暮を贈りましょう。

両方贈る際は「お中元とお歳暮の違い」で前述した通り、お中元よりもお歳暮の方は2～3割ほど値段が高いものを選ぶのがマナーです。

贈るときは継続させることを前提に



お中元とお歳暮は感謝を相手に伝えるために毎年贈り続けるもの。「その年だけ贈れば良い」というものではないので、この先も長く付き合っていきたい人か、感謝を伝え続けたい人か、贈ることが相手にとって負担にならないか、などをしっかりと考える必要があります。

それらを踏まえた上でそれでも贈りたいと決めた相手なら、しっかりと継続させていくのがマナーです。

喪中の場合や、時期を過ぎてしまった時は？



喪中の場合

お中元やお歳暮は年賀状と違い、贈る側と受け取る側どちらかが喪中でも贈って良いものとされています。ただしのし紙や時期に配慮しなければいけません。のし紙に使われる慶事を表す紅白の水引は避け、白無地の奉書紙と黒白の水引を使うといった配慮が必要です。また喪中の相手に贈る際は、遺族が負担にならないよう四十九日を避けるのがマナー。

時期を過ぎてしまった場合

「お中元とお歳暮の違い」で前述したようにどちらも贈る時期は決まっていますが、何かの事情でやむをえない場合は、以下のようにのし紙の表書きを変えて贈ることも可能です。

「お中元の場合」

御中元（時期に合わせて贈る時）

暑中見舞い（7月15日を過ぎた時）

残暑見舞い（立秋を過ぎた時）

「お歳暮の場合」

御年賀・御歳暮（時期に合わせて贈る時）

寒中見舞い（時期を過ぎた時）

受け取る時のマナーとは？



後付け	末文	主文	前文
宛名様 ⁽¹⁾	平成〇〇年〇月〇日 ⁽⁹⁾	まずは略儀ながら書中にて御礼申し上げます。 暑さ厳しき折からご自愛のほどお祈りいたします。 いづれながらかお心遣いにより感謝申し上げます。 と、この度はお心のもったお品を頂戴し、誠にありがとうございました。 皆様には益々ご健勝のほど存じ上げます。 ⁽²⁾	拝啓 盛夏の候 ⁽¹⁾
			敬具 ⁽⁸⁾
			自分の氏名 ⁽¹⁰⁾

お礼状

お中元やお歳暮は贈る側だけでなく受け取る側のマナーも大切。品物を受け取ったら、もらった感謝だけでなく日頃の感謝の気持ちも込めて、なるべく早めに相手へお礼状を書きましょう。

お礼状を書く際には、季節に合わせた時候の挨拶や贈り物に対するお礼、これからの活躍や健康を願う言葉などを書くのが一般的です。また基本的に、もらったお中元やお歳暮に対してのお返しは不要。お返しをすることによってかえって相手に気を遣わせてしまう可能性があります。

・お裾分け文化



「お裾分け」の正しいマナーとは？お返しやお礼の仕方

https://woman.excite.co.jp/article/lifestyle/rid_E1484898182199/

ママ友やご近所さんから「おすそわけ」をいただくとうれしいですが、それに対してお返しをするべきかどうか、迷うところでもあります。「もらいものだから、気にしないでね～」と言われたら、ただよろこんでもらっておけば良いの？ そうは言っても、ちょっとしたお返しが必要？今回はそんな、「おすそわけ」をいただいたときのマナーについて考えてみたいと思います。いざというときに備えて、スマートな「いただき方」を覚えておきましょう。

お返しをすべき？ しない方が良い？

何かのお祝いや、お歳暮・お中元のような贈り物には、のしをつけて表書きとして贈り物の理由を明記するのが一般的です。そして、もらった方は必要に応じてお返しをします。

特に結婚や出産、長寿などのお祝い、香典、病気見舞いなどはお返しが必要とされていますので、こういった贈り物をもらったときは、「お返しをすべきかどうか」で迷うことはあまりないでしょう。

しかし、おすそわけの場合は、もらったからといって、すぐにお返しをする必要はないと思って良いでしょう。ちょっとしたおすそわけにすぐにお返しをすると、かえって相手に気を使わせてしまうことになります。

ただし、「もらいっぱなし」で良いというわけではありません。すぐにお返しをする必要はありませんが、「いつか、良い機会があればお返しをしよう」という気持ちは忘れないようにしましょう。

容器の返し方

日本には昔から「お移り」という習慣があり、おすそわけをもらったら、品物が入っていた器に懐紙やマッチなどを入れて返すのが一般的でした。現在はクッキーなどを入れて「お移り」とすることが多くなっています。

また、反対におすそわけをする側になったときは、相手にこのような気づかいをさせないように気をつけるのもマナーのひとつ。立派な器を避ける、使い捨て容器にする、おすそわけするときに相手宅にある器に移し替えてもらうなどの工夫をすると、相手に「お移り」の気づかいをさせずに済みます。

もらうのを断りたいときは…

差し出されたおすそわけを、「結構です」と断る方法はあまりおすすめできません。どれだけ丁寧に断っても相手はやはりガッカリしますし、場合によっては傷つけてしまうかもしれません。

おすすめなのは、おすそわけをもらったら、それ以上に高価な品をすぐにお返しするという方法。これで、「もう、贈り物は結構です」という意思を伝えることができます。「今後はお気づかいなく」などの言葉を添えると良いでしょう。

さりげなくお返しをするコツ

おすそわけに対するお返しは、タイミングがとても重要です。

たとえば、家族旅行でお土産を買ってきたとき、実家から特産物がたくさん送られてきたときなど、自然なタイミングでお返しを贈ることができればとてもスマートです。

「お礼」と「感想」も立派なお返し

おすそわけをした人にとって、「よろこんでもらえた」ということは何よりもうれしいもの。もらうときにきちんとお礼を伝えるのはもちろん、次に会ったときに**再度お礼**を言って、さらに「おいしかったです」といった感想を伝えることも立派なお返しのひとつです。すぐに品物でお返しする必要はありませんが、「感謝」と「よろこび」の気持ちは積極的に伝えるよう心がけましょう。

ちょっとしたマナー違反や誤解が原因で、ママ友やご近所さんとの関係が悪化するケースは珍しくありません。「おすそわけ」や「お返し」は良好な人間関係を保つための手段。もちろん、「気持ち」が何より大切ですが、それを正しく伝えられるように、マナーもしっかり覚えておきましょう。

・年賀状をおくる文化

年賀状の由来と歴史、豆知識

昔から大切な人と交わされてきた年賀状。そこには人とのつながりを大切に、相手を思いやる日本人の心が現れています。メールが普及した現在でも年賀状の販売枚数は国民一人あたり約13枚。

平安時代にもあった！年賀状は日本の伝統文化



年賀状の歴史は古く、平安時代までさかのぼります。現存する日本最古の年賀状といわれるのが、平安時代の学者である藤原明衡が作った手紙の文例集『庭訓往来』の中にある正月の文例。「春の始めの御悦び、貴方に向かってまず祝い申し候」（春始御悦向貴方先祝申候訖）とあります。

同時に平安時代頃からは年の初めにお世話になった人や親族の家をまわって挨拶をする「年始回り」の習慣も広まりました。これは大正時代あたりまで広く行われ、正月は挨拶のために行き来する人々で通りが混雑するほどだったそうです。

江戸時代になると付き合いが広くなり、書状で挨拶を済ませることも増えていきます。新年を祝う書状を届けるのには飛脚が活躍しました。また、この頃には玄関に「名刺受け」を設置し、不在時にはお祝いの言葉を書いた名刺を入れてもらうという簡易スタイルも登場。

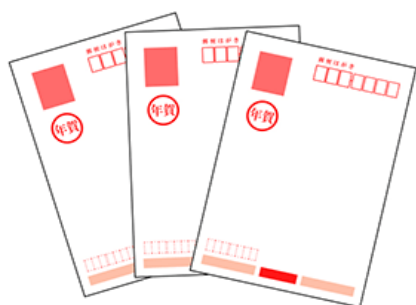
現在でも仕事の年始回りでは「謹賀新年」など賀詞入りの名刺を使うことがありますね。このように、年始回りを簡略化したものが年賀状のルーツだといわれています。

元日の消印が大人気！担当者は不眠不休で作業に

年賀状を出すことが一般に広がったのは、明治4年（1871年）の郵便制度開始がきっかけ。明治6年（1873年）に郵便はがきの発行が始まり、明治20年（1887年）頃には年賀状も激増しました。元日の消印をねらって年末に投函する人も増え、郵便局員たちは文字通り、不眠不休で消印作業にあたり、押印担当者の右手はマメで腫れ上がるほどだったそうです。

そこで取り入れられたのが、現在と同じように年末のうちに受け付けて元日に配達する年賀郵便の特別取扱いです。明治32年（1899年）に導入され、徐々に全国に広がりました。

その後、お年玉付年賀はがきが昭和24年（1949年）12月から発行されるなどして、すっかり国民的行事になった年賀状。



年賀状はいつまでに出せば元日に届く？年賀状マナー

	年賀状を出す時期	年賀状が届く時期
×	～12/14	年内
◎	12/15 ～ 12/25	元旦
○	12/26 ～ 12/28	三が日
△	12/29 ～ 1/5	松の内
×	1/6～	寒中見舞い期間

何を書く？年賀状の基本構成

1. 新しい年を祝う決まり文句（賀詞）
2. 昨年お世話になったことに対するお礼
3. 今年も変わらぬお付き合いや指導をお願いする言葉
4. 相手の健康や幸せを願う言葉
5. 年号、日付、干支など

すべての要素が入ってなくてもよいですが、(1)の賀詞は必須です。

手書きのメッセージに使ってはいけない言葉

最近はおらかじめ挨拶文が印刷されたデザインの年賀はがきも多いので、手書きのメッセージを添える際は、印刷されている文章と重複しないよう注意。よく知っている仲でも、「相変わらず景気は厳しいですが…」 「昨年は体調を崩しまして…」 など暗い話題はできれば避け、新年にふさわしい華やかな文章を送りたいですね。

返事はどうする？遅れて出す年賀状のマナー

自分が出していない相手から年賀状が届いたら、なるべく早く、できればその日のうちに返します。三が日までにらせるならとくにお詫びは添えないのも一案です。年賀状が遅れたことを詫びるコメントはサラリと書きます。松の内（1月7日）を過ぎたら、寒中見舞いとして、通常の官製はがきを使います。

喪中なのに年賀状が来たら？

こちらが喪中はがきを出すのが遅かったために先に投函してしまった方や喪中はがきを送らなかった方、あるいは12月に身内の方がなくなって喪中はがきが間に合わない場合など、喪中であっても年賀状を受け取ることは案外少なくありません。受け取ったら、喪中の連絡が遅れたことをお詫びする挨拶状を寒中見舞いとして出すのが一般的です。

来年に備えてすぐに住所録の更新を

届いていない人から来た場合はすぐに住所録（宛先リスト）に追加し、来年はこちらからも出せるように準備しておきます。

・世界に愛される日本製品 出所：<https://sotexglobal.net/post-234/>

かつては TOYOTA や日産などの自動車や、ソニー・パナソニック・東芝をはじめとする電子機器、家電などが代表的でした。私たちの日常にありふれている商品も世界で評価されているものがたくさんあります。

世界最先端の日本のトイレ



海外の人が日本にきた時にビックリするのがトイレです。日本人にとっては当たり前の「温かい便座」と「ウォシュレット」。そして綺麗なトイレ。中でもウォシュレット（温水洗浄便座）は日本製品が世界に誇る製品の一つです。ウォシュレットはこの市場でシェアナンバーワンの TOTO の登録商標です。他にも節水や節電、除菌水、陶器の表面をナノレベルで汚れが付きにくくする技術など、世界最高峰の技術を生み出しました。

世界では、TOTO のトイレを高級ブランドとしてハイクラスのホテルに導入したり、日本観光に訪れる中国の富裕層が購入したりするそうです。

海外観光客にも人気の食品サンプル



意外な物で海外の人に驚きを与えているのが食品サンプルです。日本の食品サンプルはもはや芸術。外国人観光客は日本語が分からなくても、サンプルを指差すだけで、メニューの注文ができますし、その精巧さに感動しお土産として買っていく外国の方も増えているようです。最近では、この技術を応用して携帯のストラップやキーホルダー、部屋のオブジェやアクセサリも販売されています。

心地よい温かさが長時間続く「ホッカイロ」



寒い時期の必需品である「ホッカイロ」は日本発祥の物であり、世界に誇る製品であると言えます。世界に輸出され、国々の人に愛用されています。

ホッカイロの良さは発熱よりも、心地よい一定温度の温かさが長時間持続するという点です。この技術の開発は難しく、小林製薬が世界ナンバーワンシェアを誇ります。

小林製薬の「熱さまシート」



同じく小林製薬の製品で、海外でも人気を博す「熱さまシート」があります。約20カ国で展開し、国外で年間1億8000万枚も売り上げ、2014年は海外の売り上げが国内を上回ったそうです。

日本では「子供が熱を出した時」など、発熱時に使うイメージがありますが、これが海外…特に暑い地域では「暑い時に使う」など、地域に根ざした販売戦略や店舗戦略を行ったことで結果に繋がったそうです。

トイレ用洗浄剤で年間売上高が世界一



小林製薬のトイレ用洗剤「ブルーレット」も実は日本初の商品です。世界各国で販売されるトイレ用洗剤約70品目のうち、ブルーレットの国内売上高は2013年には約138億円となり、世界一だそうです。そして、2014年にはこの実績がギネス世界記録®に認定されました。

その他：外国人に人気の日本製品ランキング

https://aqcg.jp/oversea_japanranking2018/

16位：目薬 15位：焼肉のたれ 14位：冷蔵庫 13位：ヨーグルト



12位：チョコレート 11位：ラップ 10位：任天堂 Switch 9位：冷凍食品



8位：カップめん 7位：空気清浄機 6位：アイス 5位：ボールペン



4位：包丁 3位：コンビニおにぎり 2位：アニメ 1位：炊飯器



4. 文字文化（仮名と漢字）

「ひらがな」と「カタカナ」の誕生 <https://edusup.jp/topic/20160831>

私たちは普段、漢字、ひらがな、かたかな、アルファベット、数字などの文字を使って日本語を読み書きしています。

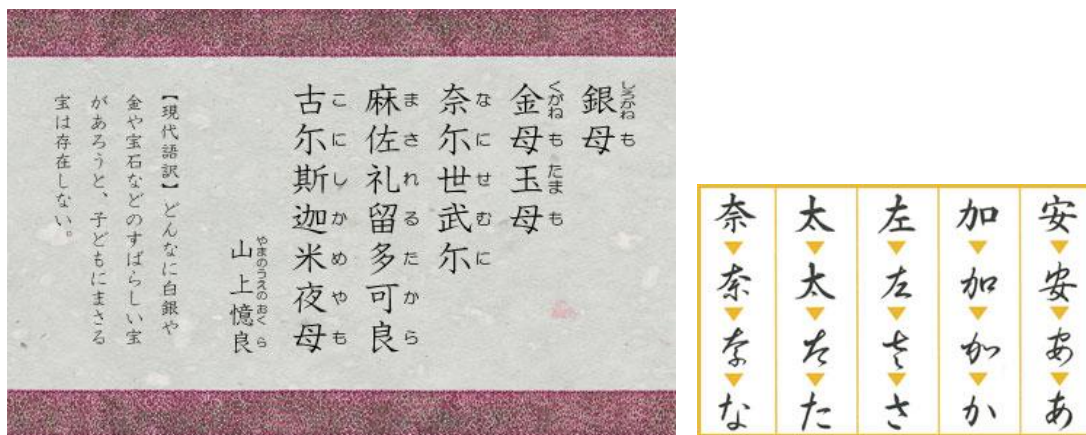
中でも、「ひらがな」と「かたかな」は日本語で使う音を表した「表音文字」で、「表意文字」である漢字から生まれた日本語特有の文字です。

そもそも、同じ音を表す文字がなぜ2種類あるのでしょうか？

日本語の音を表す漢字「万葉仮名」

漢字は、今から約 2400～1700 年前ごろに、今の中国から日本列島へ初めて伝えられたと言われています。

日本列島にいた人々は、自分たちの言葉と同じ意味をもつ漢字を当てはめることで、ものごとを書き表せるようになりました。しかし、もともと中国の言葉を表す漢字だけでは、日本の言葉を十分に書き記すことができませんでした。そこで、漢字を本来の意味とは切りはなして、その音だけを借りることを考えました。こうして使われ始めたのが「万葉仮名」です。



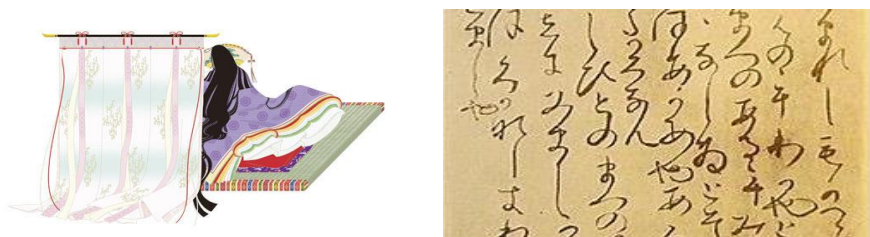
万葉集の歌（銀、金、玉以外は万葉仮名）

万葉仮名は、漢字を使って日本語の音を表したもので、いわゆる「当て字」です。考え出されたのは「7世紀ごろ」であろうと言われています。

8世紀に成立した『古事記』、『日本書紀』、『万葉集』などでは、万葉仮名が使われています。ひらがなとかたかなは、この万葉仮名から誕生しました。

①万葉仮名からひらがなへ（例）

万葉仮名は、1つの音にいくつもの漢字を当てたため種類が多く、また形が複雑で書くのが難しいものもありました。そこで生まれたのが「ひらがな」。ひらがなは、万葉仮名をくずして簡単にした文字で、9世紀ごろから使われるようになったと言われています。



当時の貴族社会において、男性が公的な場面で用いるのは漢字であり、ひらがなは主に私的な場面で、あるいは女性によって使われる文字とされました。ひらがなは、主に手紙や和歌、物語、随筆などに用いられ、女流文学が花開く契機となりました。ひらがなで書かれたこの頃の文学作品には、紀貫之が女性を装ってつづった『土佐日記』（935年ごろ、最古の日記文学）、清少納言の『枕草子』（1001年ごろ）、紫式部の『源氏物語』（1008年ごろ）などがあります。

『ひらがなの由来の漢字一覧表』

<u>あ</u> ←安	<u>い</u> ←以	<u>う</u> ←宇	<u>え</u> ←衣	<u>お</u> ←於
<u>か</u> ←加	<u>き</u> ←幾	<u>く</u> ←久	<u>け</u> ←計	<u>こ</u> ←己
<u>さ</u> ←左	<u>し</u> ←之	<u>す</u> ←寸	<u>せ</u> ←世	<u>そ</u> ←曾
<u>た</u> ←太	<u>ち</u> ←知	<u>つ</u> ←州	<u>て</u> ←天	<u>と</u> ←止
<u>な</u> ←奈	<u>に</u> ←仁	<u>ぬ</u> ←奴	<u>ね</u> ←祢	<u>の</u> ←乃

は←波	ひ←比	ふ←不	へ←部	ほ←保
ま←末	み←美	む←武	め←女	も←毛
や←也		ゆ←由		よ←与
ら←良	り←利	る←留	れ←礼	ろ←呂
わ←和	ゐ←爲		ゑ←惠	を←遠 ん←无

②カタカナの誕生

奈 (奈) ナ ナ	多 (多) タ タ	散 (散) サ サ	加 (加) カ カ	阿 (阿) ア ア
--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------



万葉仮名からかたかなへ（例）

「かたかな」も、ひらがなとほぼ同時期に万葉仮名から生まれました。ひらがなが万葉仮名をくずしたものであるのに対して、かたかなは万葉仮名の一部を抜き出したものが起源とされています。

僧侶の間で読まれていた経典は、全て漢文で書かれていたので、僧侶たちは行間に読み方などのメモを書き入れていました。

その際、形の複雑な万葉仮名では狭い行間に書き入れるのが難しい為、**9世紀**ごろから万葉仮名の一部だけが書かれるようになりました。

これが、カタカナの始まりとされています。

「万葉仮名」→「草仮名」→「ひらがな」→「カタカナ」

書体：

「楷書体」→「行書体」→「草書体」→「ひらがな」→「カタカナ」→漢字

③漢字



前述のように、日本語は当初文字を持っていませんでした。文字は言語を記録するために後から誕生するものです。したがって、日本語に限らず、どの言語も最初から文字を伴っていたわけではありません。現在、地球上に存在する言語の数は諸説あって、3000、5000、6500、8000とも言われます。文字を持っている言語は400程度と言われており、文字を持たない言語の方が圧倒的に多いことが分かります。

日本語の場合も、他の言語で使われている文字を借りてくるという方法によって文字を獲得しました。そして、最初に借りてきた文字が「漢字」だったのです。漢字を表語文字として使うほかに、漢字をもとにした表音文字（平仮名・片仮名）も作り出し、「漢字仮名交じり文」のように表語文字と表音文字との二つの文字を混ぜて使っている言語は珍しいと言えます。

日本語を話す人々が漢字に最初に出会った時期は、金印（福岡県志賀島出土）や銅銭（長崎県シゲノダン遺跡出土）などから、1世紀ごろだと推定されています。いずれも中国大陆で製作された品で、金印には「漢委奴国王」、銅銭には「貸泉」という漢字が記載されています。5世紀ごろになると、日本で制作された鉄剣や銅鏡に、日本の地名や人名が漢字を用いて記載されるようになります。

日本語を話す人々の中に、漢字を読み書きできる能力を持った人が増え始めたのは6世紀から7世紀になってからです。この頃、中国大陆や朝

5. 美しい日本語、難しい日本語

<https://haa.athuman.com/media/japanese/culture/2821/>

日本文化のひとつ「言葉」に外国人も絶賛！

日本文化の特徴といえば、独特な感性を持つ日本語が挙げられるのではないのでしょうか。季節や天候を表す言葉など、数多くの美しい日本語が存在し、外国人からも人気となっています。

しかし数多く存在する日本語だからこそ使い方が難しく、訳すのが困難であるともいえるのです。この記事では、外国人にとって訳すのが難しい言葉や、日本文化を学ぶうえで欠かせない言葉についてご紹介します。

① 外国語に訳すのが困難！美しい言葉とその意味5つ



日本語には数多くの言葉が存在し、美しさもありながら難しさも感じる言語となっています。特に天候や状態を表す言葉は数え切れないほどあり、それらすべてを外国語に訳すのはなかなか困難かもしれません。たとえば雨が降っている様子を表す言葉にも「ごーごー」「しとすと」「ぱらぱら」などたくさん表現ができてしまいます。

他には、どのような表現が難しく感じるのでしょうか？ここでは外国人が訳すのが困難だと感じる日本語について、詳しくご紹介します。

もったいない

日本では当たり前のように使われている「もったいない」という言葉。実はぴったりの意味を持つ英語はないため、海外でも「Mottainai」という言葉が使われています。しかしこのもったいないという言葉は、

- Reuse (再利用)
- Recycle (再資源化)
- Reduce (ゴミ削減)

に加えて「Respect (限りある資源への尊敬の念)」が追加されたものと定義されているのです。もったいないという言葉は「資源を無駄にしない」という日本の文化が表れた言葉ではないでしょうか。

【例文】まだ買ったばかりの服を捨てるなんて、もったいないよ。

わびさび

美しい日本語として紹介されることの多い「わびさび」という言葉ですが、日本人でも意味を知っている人は少ないのではないのでしょうか？

わびさびは日本独自の美意識を表す言葉で、質素で簡素な美しさという意味合いがあります。とても抽象的で、日本人だからこそ感じることのできる美しさという言葉であり、外国人に説明するには難しい言葉です。

【例文】この日本庭園にはわびさびを感じることができる。

切ない

日本ではドラマや音楽などでよく使われる「切ない」という言葉ですが、この言葉も外国人には説明しづらい言葉となっています。海外の言葉では「切ない」を表す言葉がありません。そのため「胸をギュッと締め付けられるような寂しい気持ち」という言葉は、やはり日本語でしか表現できないのではないのでしょうか。

【例文】秋の静けさは切ない気持ちになる。

一人称

実は日本語ほど一人称が豊富な言語はありません。日本語でいう「私」「僕」「俺」がすべて英語の「I」で済んでしまいます。

しかし日本語の一人称はどれを使うかによって自分の印象が変わるため、一人称のイメージは大切です。プライベートでは「俺」と言っている人でも、仕事の間では「私」を使っているなど、使い分けも珍しくありません。外国人にはこの習慣がないため、一人称の違いを説明するのは難しいといえます。

初心

「初心忘れるべからず」という言葉は日本人なら一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。この「初心」という言葉も日本独自のものになります。アップル創業者のスティーブ・ジョブズ氏はこの言葉を「日本にある素晴らしい言葉」と絶賛しました。たしかに海外には初心という言葉はないため、日本人の独特な感性が作り出した言葉といえるでしょう。

【例文】初心にかえって学び直すことにした。

日本文化を学ぶのに欠かせない言葉の持つ力



日本語や日本の文化を学ぶうえで欠かせないのが「言葉の持つ力」です。ここでは日本語を楽しむために知っておきたい言葉をご紹介します。

わざわざ⇔せっかく

「わざわざ」と「せっかく」は、意図的に何かをするとき使用する同じ意味を持った言葉になります。しかしこの2つの言葉は以下のような違うニュアンスを持っているため、注意が必要です。

- わざわざ：あとに続く事柄が労力を要するもので、本来は必要ないものとされている
- せっかく：あとに続く事柄が望ましいものとされている

このような違いがあることから、同じような意味を持つこの2つの言葉は文章で入れ替えることができません。そのため、そのときの状況によってふさわしい言葉を選ぶことが必要とされるのです。

擬態語のキラキラ

日本語にはオノマトペが豊富という特徴があります。すべて同じ意味のように聞こえる擬態語でも、その種類によって様子が変わって見えるということがあるため、注意が必要です。

たとえば星が光っている様子をあらわす「キラキラ」「ピカピカ」といった擬態語を比べてみましょう。「キラキラ」は慎ましく光っている様子に感じますが「ピカピカ」はキラキラよりも光が強い印象を受けます。このように同じ星が光っている擬態語でも種類によって様子が違って聞こえるのです。

そのほかにも雨の呼び方は400語こえ

季節や天候をあらわす呼び方が数多くあるとご紹介しましたが、特に雨の呼び名は400語以上も存在し、雨の多い日本らしい情緒がうかがえます。

例：【霖雨りんう】何日も降り続く雨。【涙雨なみだあめ】少しだけ降る雨。
【風雨ふうう】風をともなって降る雨。【天泣てんきゅう】雲がないのに降る雨。
【慈雨じう】日照り続きの時に降る恵みの雨。【血雨けつう】黄砂や火山灰が混じった雨。【鬼雨きう】並外れた大雨。など

まとめ

この記事では、外国人にとって訳すのが難しい言葉や、日本文化を学ぼうとて欠かせない言葉をご紹介しました。日本語には、外国語にはない独自の文化が確立されており、外国語で説明できない面白さがあります。日本の文化や歴史と合わせて楽しむことができるのが、日本語の魅力ではないでしょうか？

② 時候の挨拶

<https://www.midori-japan.co.jp/letter/letter-manners/198>

手紙の中で頭語の後にくるのが時候の挨拶です。季節にふれる挨拶は手紙のもっている美しい伝統のひとつです。時候の慣用句もありますが、自分なりの表現で、季節感をうまく工夫して相手に伝えると良いでしょう。

1月	新春の候、初春の候、新春を寿ぎ、寒気ことのほか厳しく
2月	余寒の候、向春の候、余寒厳しき折柄、立春とは名のための寒さ
3月	冬の名残のまだ去りやらめ時候、早春のころ、春寒次第に緩み
4月	桜花爛漫の候、陽春の候、うらかな好季節を迎え、花冷えの時節でございますが
5月	新緑の候、薫風の候、若葉の緑が目にしみる季節、風薫る五月
6月	梅雨の候、初夏の候、時候不順の折、暑さ日増しに厳しく
7月	猛暑の候、酷暑の候、暑気厳しき折柄、暑熱耐えがたきこの頃
8月	残暑の候、残夏の候、朝夕涼味を覚える頃、残暑凌ぎ難き候
9月	初秋の候、黄葉の候、残暑去り難く、秋色次第に濃く
10月	秋冷の候、錦秋の候、秋色日毎に深まり、天高く馬肥ゆる秋
11月	晩秋の候、紅葉の候、秋気いよいよ深く、落ち葉散りし時節
12月	師走の候、初冬の候、寒気いよいよ厳しく、歳末ご多端の折

また、時候の挨拶のあとには、安否を気づかう挨拶が続きます。ここでは季節感あふれる時候の挨拶をご紹介します。かしこまったお手紙には月ごとの定型句を親しい方へのお手紙には少しカジュアルな表現を用いると良いでしょう。

<お詫び・お見舞いの場合>

お詫びの手紙では、申し訳ないという気持ちを伝えることが最大の目的です。時候の挨拶は書かずに、単刀直入に本題に入りましょう。また、お見舞いの手紙では、相手の体調を気遣う気持ちを伝えることが大切です。容態や被害の状況に応じて時候の挨拶は省きましょう。

<ビジネスの場合>

ビジネスで時候の挨拶を使う場合、「～の候」という古くからの漢語調の挨拶だけでは事務的な印象を与えてしまいます。ビジネスだからこそ、ほんのひと手間かける心遣いで仕事までもできる印象に。ご自分が五感でその時に感じた言葉を加える工夫をしましょう。



時候の挨拶 1月（睦月：むつき）

1月のイベント／おそい年賀状、寒中見舞い

新しい年を迎え、心新たに動き出す月。縁起の良い風景や出来事（吉兆）を入れて、お相手の一年の多幸を確信するように書くと印象がよいでしょう。



時候の挨拶 2月（如月：きさらぎ）

2月のイベント／節分、バレンタインデー

2月は、実際には一年の中で寒さが最も厳しく、雪も多い季節です。しかし、暦の上では3日頃に節分、4日頃には「立春」を迎え、春が始まります。寒い中でも日脚が伸び、春の植物が咲き始め、東風が吹くなど、少しずつ訪れる春に焦点を当て、明るく温か味のある時候の挨拶にすると良いでしょう。



時候の挨拶 3月（弥生：やよい）

3月のイベント／ひな祭り、合格・卒業のお祝い、人事異動

3月は花見月と呼ばれるほど、梅・桃・桜をはじめたくさんの草花が咲き誇る季節。その年の気候によって開花時期が変わりますので、ご自身で観察した植物の様子を言葉で表現しましょう。また、変化の時期でもありますので、環境が良い方向に変わる方には、そちらにかかるような華々しい季節の表現を入れるのもおすすめです



時候の挨拶 4月（卯月：うづき）

4月のイベント／入学・就職のお祝い、お花見

4月は、さまざまなお花（桜、木蓮、花水木 etc）が咲き乱れ、お花を楽しむ絶好の時期ですが、風が吹くとあっけなく散ってしまうのが、春の花たちの特徴です。一般的に言われている時期に合わせて書きますと、既に散っている可能性がございますので、お気をつけてください。



時候の挨拶 5月（皐月：さつき）

5月のイベント／端午の節句、ゴールデンウィーク、母の日

5月は、緑が美しく、気候としても過ごしやすい一番清々しい季節です。ですから、時候の挨拶では、草木の緑の様子、香り、心地よい風などを表現するとよいでしょう。また、季節の語である、菖蒲・つつじ・すずらん・バラ・立夏・初夏・新緑・若葉を使って、ご自身の表現を綴ってみるのもよいですね。



時候の挨拶 6月（水無月：みなづき）

6月のイベント／梅雨入り、父の日

6月は、梅雨入りし、蒸し暑く、うっとうしい季節です。気分が滅入ってしまいそうな天候が続くからこそ、お相手の心にすがすがしい風が通り抜けるような表現を書きたいもの。雨だからこそ美しく感じる紫陽花や瑞々しい草木の様子を書いてみてはいかがでしょうか。



時候の挨拶 7月（文月：ふみづき）

7月のイベント／七夕、暑中見舞い、お中元

7月7日ころ小暑を迎え、本格的に夏の厳しさが始まります。そして、7月23日ころ大暑になりますと、夏の最も暑い時期となり、夏バテをされる方も多くなります。ですから、お相手の健康を気遣う言葉を入れたり、暑い夏にせめて気分だけでも涼しくなるような言葉を紡いでみましょう。



時候の挨拶 8月（葉月：はづき）

8月のイベント／残暑見舞い、お盆、夏祭り

8月8日に立秋を迎え、暦の上では秋がはじまりますが、実際には一年で一番暑い時期です。暑い中でも楽しめたり、元気をもらえる、「ひまわり・あさがお・花火・夏祭り」などの話題を入れてみてはいかがでしょうか。



時候の挨拶 9月（長月：ながつき）

9月のイベント／敬老の日

暦の上では、8日頃に秋の気配が見え始める「白露」を迎え、23日頃に「秋分」を過ぎると夜も長くなり、深まる秋を感じるようになります。ひと雨ごとにやわらぐ暑さ、朝・晩に感じる心地よい風、台風後の美しい秋晴れなど、夏から秋へ移行していく様を、ご自身の言葉で表現してみるとよいでしょう。



時候の挨拶 10月（神無月：かんなづき）

10月のイベント／月見、ハロウィン

10月は自然が大きく変化する季節です。天候・気温・植物の実り・色彩・虫の音色などの変化を、五感で感じたことを表現してみましょう。天気予報の解説を参考にするのもお勧めです。



時候の挨拶 11月（霜月：しもつき）

11月のイベント／紅葉狩り、喪中見舞い（年賀欠礼の返信）

11月は、秋から冬への移行の時期です。11月7日頃「立冬」を迎え、日毎に寒さも身にしみる季節。木枯らしが吹き、落ち葉が舞い散る様子に、もの寂しさを感じる季節でもあります。ですから、そのような情景をそのまま描写するのではなく、冬の訪れを楽しむ言葉で表現してみましょう。受け取り手も、心が温まり元気になることでしょう。



時候の挨拶 12月（師走：しわす）

12月のイベント／クリスマス、御用納め、年賀状

一年の終わりである師走。文字通り走り回るような何かと忙しい時期です。また、12月7日頃に大雪、22日頃には冬至を迎えます。年も極まり寒さも極まり、切羽詰ったような気分になりがちです。ですから、お相手の心も足取りも軽くなるような表現を心がけると喜ばれるでしょう。忙しい時期ですので、健康を気遣う言葉や一年間お世話になった感謝の言葉を繋げるとより良い印象になることでしょう。

③ 季語

季語は日本文学の長い歴史のなかで、しだいに成熟し、増加してきた。この国における風土と感情の特徴をよく表しており、俳句のためだけのものではなく、広く生活に浸透しているもの。

1月 睦月		12月 師走		11月 霜月															
大寒 (20日頃)	小寒 (5日頃)	冬至 (22日頃)	大雪 (7日頃)	小雪 (22日頃)	立冬 (7日頃)														
冬将軍	女正月	冴ゆ	松納	寒の入り	七福神	初春	除夜の祭	小晦日	行く年	柚子湯	聖夜のクリスマス	年の暮	短日	冬ざれ	冬めく	亥の子	神送り	芭蕉忌	七五三
三寒四温	左義長	鏡開き	松の内	人日	去年今年	初詣	大晦日	年惜しむ	数え日	数え日	初霜	第九	果ての月	師走	冬うらら	えびす講	神の旅	神楽	酉の市
寒波	吹雪	霧氷	空風	しまぎ	淑気	初空	小春	粉雪	雪催	冬の雷	初氷	初霜	かまいたち	虎落笛	未枯野	枯山	山眠る	冬風	時雨
寒月	雪嶺	氷柱	隙間風	冬銀河	雪明かり	初富士	初明かり	風花	初雪	雪起し	霧柱	霜柱	狐火	北風	冬夕焼	冬野	水涸る	木枯らし	神渡し
埋火	雪見	年玉	御用納	年の市	年用意	年忘れ	息白し	悴む	懐手	懐炉	炬燵	焚火	囲炉裏	障子	雁木	雪吊	外套	重ね着	顔見世
日向ぼこ	冬耕	初句会	初夢	門松	古日記	ポーン	煤払	毛糸編む	木の葉	毛布	火の番	櫛	炉開き	北窓塞ぐ	冬籠もり	冬構	マスク	手袋	襟巻
煮凝り	寒造り	若菜摘む	七種	寄鍋	寒鰯	海鼠	氷魚	白菜	きりたんぽ	大根引	生姜湯	爛酒	玉子酒	蜜柑	餅搗	焼芋	焼鳥	香箱蟹	
ハタハタ	粕汁	納豆	沢庵	雑炊	鮎鍋	鰯鍋	寒鯛	人参	葱	蕎麦	葛湯	湯豆腐	鱈酒	橙	冬苺	鯛焼	てっちり	ズワイ蟹	
鮫	寒鯉	兎	狸	竈猫	嫁が君	冬眠	熊	狼	むささび	笹鳴き	百合	冬雲雀	冬百舌鳥	千鳥	浮寝鳥	鴨	水鳥	鶯	動物
雪折	水仙	寒梅	冬椿	室咲	冬薔薇	深山密	冬紅葉	柿落葉	茶の花	柊の花	枯芭蕉	枯芙蓉	枯尾花	冬木立	枯葉	枯木	枯庭	紅葉狩	木の葉
臘梅	寒紅	寒桜	冬草	福寿草	冬紅葉	返り花	木守柿	山茶花	枇杷の花	柊	枯蔦	枯菊	枯茨	朽葉	水草	紅葉散る	銀杏落葉	数松葉	萩の聲

④ 「和歌」「俳句」「短歌」「川柳」の意味と違い

<https://business-textbooks.com/waka-haiku-tanka-senryu/>

日本独自の詩の形態に、「和歌」「俳句」「短歌」「川柳」の4つがあります。これらの語に接する機会が多いものの、その違いについて詳しく言える人は、そう多くないかもしれません。しかし、日本人としてはやはり、それぞれの内容についてしっかり知っておきたいところです。今回は、「和歌」「俳句」「短歌」「川柳」の意味や違いについて解説します。



「和歌」とは

「和歌」は、日本で最も古くから行われている詩歌の形態です。「倭歌」とも書きます。一般的な読み方は「わか」ですが、「やまとうた」と訓読することもあります。

「和歌（倭歌）」の「和（倭）」は、日本の古い呼び名に当たります。「歌」はこの場合「詩歌」を意味しますから、「和歌」は「日本伝統のうた」という意味を持つことになります。

「和歌」の構成は、5音（仮名で5文字の言葉）と7音（仮名で7文字の言葉）が基調となっています。種類としては、「長歌」「短歌」「旋頭歌（せどわか）」「片歌（かたうた）」などがあります。このことからわかるように、「短歌」は「和歌」の一種類となっています。

「俳句」とは

「俳句（はいく）」とは、「俳諧（はいかい）の句」を略した言葉です。「俳諧」は、もともと「おかしみ」や「滑稽味」を意味する言葉でしたが、室町時

代に詩歌の一形態として確立されると、江戸時代に入って広く普及しました。

「発句（ほっく）」と「連句（れんく）」から成りますが、現在は5・7・5の3句から成る「発句」を指して、「俳句」と呼ぶことが一般的です。数え方の単位は「句」で、「一句」「二句」などとなります。

「俳句」と「短歌」は、共に5音と7音を基調とする点では同じですが、こまかい部分ではいろいろな違いがあります。「短歌」が全部で31文字を基本として構成されるのに対し、「俳句」は5・7・5の17文字を基本として構成されるようになっています。また、季節に関連した「季語」を使わなければならない点も、「短歌」との違いになります。

「短歌」とは

「短歌（たんか）」とは、「和歌」の一形式を意味する言葉です。「長歌（ちようか）」の対になるものを指します。

「短歌」は、5・7・5・7・7の5句で構成されます。全部で31文字から成るため、「みそひともじ（三十一文字）」と呼ばれることもあります。初句から第3句まで（5・7・5）の部分を「上（かみ）の句」または「本（もと）」と言います。第4・5句（7・7）の部分を、「下（しも）の句」または「末（すえ）」と言います。数え方は「俳句」と違い、「一首」「二首」のようになります。

「短歌」は本来、前述のように「和歌」の一種です。しかし現在では、両者は同じものとして認識されています。その一方で、明治以降の新しい「短歌」については「和歌」とは呼ばれず、「近代短歌」として使い分けられています。

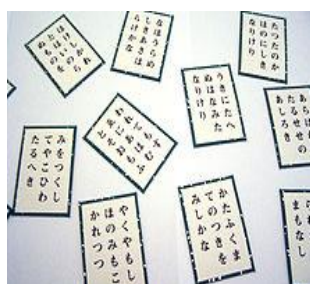
「川柳」とは

「川柳」とは、風刺や機知、世相などを読みこんだ、5・7・5の17文字から成る詩を意味する言葉です。読み方は、「せんりゅう」となります。

「川柳」は、江戸時代に「雑俳（ざっぱい）」と呼ばれる「俳諧」の一種から生まれました。「川柳」の呼び名は、代表的な作者であった「柄井（からい）川柳」の名に由来しています。

「川柳」は、5・7・5の17文字で構成されるという点では、「俳句」と同様です。しかし、季語がなく、題材や言葉遣いも問わないという点は、「俳句」との違いとなっています。

『百人一首』とは



第1首：天智天皇

かるた

かるた大会

「秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ」

百人の和歌を一人につき一首ずつ選んで作られた秀歌撰（詞華集）。

藤原定家が京都小倉山の山荘で鎌倉時代初期に揮毫した小倉山荘色紙和歌に基づくものが「歌がるた」として広く用いられ、後世に定着して小倉百人一首と呼ばれている。

百人一首に採られた100首には、1番の天智天皇の歌から100番の順徳院の歌まで、各歌に歌番号（和歌番号）が付されている。この歌番号の並び順は、おおむね古い歌人から新しい歌人の順である。

小倉百人一首に選ばれた100名は、男性79名、女性21名。男性の内訳は、天皇7名、親王1名、公卿28名（うち摂政関白4名、征夷大將軍1名）、下級貴族28名、僧侶12名、詳細不明3名。また女性の内訳は、天皇1名、内親王1名、女房17名、公卿の母2名となっている。

歌の内容による内訳では、春が6首、夏が4首、秋が16首、冬が6首、離別が1首、羈旅が4首、恋が43首、雑（ぞう）が19首、雑秋（ざっしゅう）が1首である。100首はいずれも『古今和歌集』『新古今和歌集』などの勅撰和歌集に収載される短歌から選ばれている。